

玉井小だより

平成28年9月14日

大玉村立玉井小学校

TEL (48) 3302

発行者 校長 佐藤一男

新たなつながりを生むボランティア

2学期のスタート、長い夏休みが終わり旧校庭は雑草でいっぱいになっていました。

9月1日(木)昼休みのことです。とても暑い日でしたが、何人かの子どもたちと先生が校庭で草取りを始めました。自由に遊べる昼休みなのに、偉いなと思って見ていました。すると、だんだんに子どもたちの数が増えてきました。先生方から放送で指示があったわけではありません。いつの間にか子どもたちが集まり、先生方も出てきて、草取りの時間になりました。

一人でとる子もいましたし、友達と何か楽しそうに話をしながら草をとる子もいます。わずか20分程度の時間でしたが、自然でとても素敵な時間でした。そして何とも新鮮な感じがしました。

誰かの小さな動きがあり、それに反応する子がいて、またそれに応じる子どもたちや先生方が現れる。そうやって、ボランティアの輪は広がります。

誰かが勇気を持って自分から行動を起こしたら、恥ずかしがらずにそれに「対応する」、「呼応する」それが大事なのだと思います。そこには思いもよらないつながりが生まれ、一人ではどうしていけないようなことができてしまうことがあります。

ボランティアの魅力やすばらしさはそこにあるのだと思います。

そしてボランティアは、「してもらった人」はもちろん喜びを感じますが、「ボランティアをした人」にも大きな喜びを与えます。

その後も、何日間か朝や昼休みの草取りが続きました。校庭にはまだ少し草が残っていますが、立派な校庭に戻りました。



【誰かの思いから輪は広がります】



【それに呼応する人が出てきて、輪は広がります】

〈裏へ続きます〉

学校と保護者、地域との連携・協働

9月9日(金)、3年生がPLANT-5とあだたらの里直売所を見学しました。地域のみなさまが子どもたちをととても大事にして下さっているのがよく分かります。



【店長の矢吹吉信さんのお話】

わたしは、9月9日に大玉村の直売所に行きました。はじめに直売所の店長さんに、お店のことを教えてもらいました。また、来年には、大きな直売所を作るらしいです。次に、中に入ってお店の中を見ました。いろいろな野菜が売られていました。最後に、なしとりんごとストラップをもらって帰りました。とても楽しかったです。

(3年 柳田萌依)

また同じ日、4年生は向山製作所の鈴木康広さんに来ていただき、生キャラメルの製造や販売についてお話をいただきました。お話の中で紹介された向山製作所のポップコーンも食べさせてもらいました。



【向山製作所の鈴木康広さんのお話】

金曜日、多目的ルームで向山製作所の方からお話を聞きました。とても印象に残った話は、大玉村から世界に、向山製作所の生キャラメルを売ったことです。大玉村からどうやって世界に進出したのか不思議に思ったけど、とてもすごいと思いました。もう一つあります。キャラメルの味が、月によって違うことです。1月や2月など季節毎に旬の野菜などを使ったキャラメルが楽しめて、すごいと思いました。

向山製作所は、まさに『下町ロケット』だと分かりました。とても勉強になったのでよかったです。

(4年 本多美園)

9月に入り、3年生の算数の授業には、保護者の方が来て、教えて下さっています。本当にありがたいと思っています。子どもたちの教育は学校だけでできるものではありません。保護者のみなさまや地域の方々のご理解とご協力がどうしても必要です。これからも保護者のみなさまや地域のみなさま、そして地域の企業等の方々のお借りして、より充実した教育活動を展開していきたいと考えています。



【保護者の学習参加 3年算数】

心は人とのかかわりを通して育ちます。是非、学校にお越しください。子どもたちも学校だけでなく、地域に飛び出して学んでいきます。